

割れ窓理論

割れ窓理論とは

「割れ窓理論」とは、アメリカの犯罪学者ジョージ・ケリング博士によって提唱されたもので、「1枚の割れたガラスを放置すると、いずれ街全体が荒れて、犯罪が増加してしまう」という理論である。

逆にいえば、公園や地域の清掃活動、落書きの消去作業などにより、身のまわりの小さな乱れに早く対応すれば、将来発生し得る犯罪を未然に防ぐ効果があるといえる。

かつて、犯罪多発都市ニューヨークで、1994年以降、当時のジュリアーニ市長が「割れ窓理論」を実施。割られた窓の修理や落書きなどの消去とともに軽微な犯罪の取り締まりを強化した結果、犯罪が大幅に減少したといわれている。ニューヨークのイメージは変わり、落書きで有名なNY地下鉄は、いまではきれいな車体で、安全な乗り物としてニューヨーク市民の足になっている。

各地域の取り組み

●六本木安全安心パトロール隊

六本木は東京を代表する大繁華街の1つである。にぎやかな街である反面、薬物による事件や殺傷事件が多発したり、子どもの通学路として早朝さえ酔っ払い等が多かったりした場所でもあった。このことに危機感をもったことがきっかけで「六本木安全安心パトロール隊」が平成16年に結成された。

メンバーは毎回30名程度。六本木商店街振興組合と町会などの住民のほか、麻布署や港区からの数名の協力者、ボランティア参加の民間警備会社のサポートもある。パトロール隊の活動と、10年以上環境美化の活動をしてきた「六本木をきれいにする会」の実績もあり、メンバーは「港区道路美化協力員」として登録された。この登録証と腕章があると、違法看板の撤去ができる。また、パトロールと同時に路上のゴミも集めている。この結果、違法看板はみるみる減少し、落書きとゴミで汚かった路地は元に戻った。

●足立区「ビューティフル・ウィンドウズ運動」

割れ窓理論を参考に、「美しいまち」を印象づけることで犯罪を抑止していこうという足立区独自の運動をいう。

地域での防犯活動の支援、美化推進活動の支援、路上喫煙禁止の推進、放置自転車の防止、商店街でのシャッターアート、学校や地域での草花による美しいまちづくり、花いっぱい運動などの取り組みがなされている。

このうち、シャッターアートは落書きを防ぎ、まちを明るくきれいにするため、商店街の協力によって行われている。毎年夏休みごろ、都立足立高校、私立潤徳女子高校の学生が美しい絵を描いている。

また、花いっぱい運動では、花壇の育成を通じて美しいまちづくり、及び地域コミュニティの形成を図ることを目的としている。

道に落ちているゴミを拾うなど、日ごろの小さな運動を見た人に、「このまちは、住民のまちに対する意識が高い」と思ってもらうことが大事と考えている。その上で、「ビューティフル・ウィンドウズ」の考え方が広まっているまちで育った子どもは、高い規範意識をもって成長し、やがて自分の子どもの手本になるという環境が生まれてくると期待している。

●京都府庁落書きバスターズ

シャッターや壁にかかれた落書き、張り紙など、小さな犯罪の芽を消去・除去することにより、大きな犯罪の芽を摘み取る活動を行っている。

府職員のボランティア参加がもたれているが、活動の主体は、あくまでも自治会や商店街、PTAなどの地域住民である。地域自らが主体となって落書きを排除し、地域の人々の安全なまちづくりへの関心を高め、実践していくことが犯罪を発生させない安全なまちへ、元気なまちへとつながっていくとしている。参加団体名が広報媒体に掲載されることで認知度が上がり、マスコミから取材されることで、さらなる「やる気」の向上につながっている。